

## 第2回橋本市ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2018年8月7日(火) 14時～16時
- ◇会場 橋本市教育文化センター
- ◇参加者 岡村・西口(紀見小)、野田・中谷(三石小)、米山・中谷・辻本・(あやの台小)、森(橋本市教委)、北村・中澤(奈良教育大学)

テーマ：次期学習指導要領とESD

次期学習指導要領に即した各教科・総合等でのESDの授業

ESDで育てたい見方・考え方(ESDの視点)

### 1. 次期学習指導要領について

#### (1) これまでの学習指導要領との違い

- ・ 予定調和の世界で生きる子どもの育成が先行き不透明な世界で生きる子どもの育成に変化

問い1. 先行き不透明な原因を3つ書いてください。

- ・ 気候変動の影響などで、災害が多発するかもしれない。
- ・ 南海トラフを原因とする巨大地震もある。
- ・ 国家間の緊張が高まっており、戦争が勃発する可能性、あるいは日本においてもテロが発生する可能性もある。

- ・ AIの発達によって、今ある仕事の多くがなくなってしまう。

- ・ 特に日本では人口減少が進み、労働力も購買力も低下する。また医療や年金の問題などある。

☆社会に適應できる力の育成というよりは、社会の創り手の育成 適應→創造

#### (2) 子どもにつけたい3つの学力(資質・能力)

①各教科で育成する教科固有の学力

②すべての教科の基盤となる学力

問い2. たとえばどのような学力でしょうか。

- ・ 言語力、情報活用能力、問題解決力、クリティカルシンキングなど

③地球的課題に対応する力

問い3. 地球的諸課題を5つあげてください。

- ・ 気候変動
- ・ 食料問題
- ・ 平和・紛争・戦争
- ・ 生物多様性の劣化
- ・ 資源の枯渇
- ・ 人口爆発
- ・ 海洋資源の枯渇
- ・ エネルギー問題

(3) 学力（資質・能力）を構成する3つの柱

①知識・技能 事実的知識（断片的知識）

what,when,which,where,who などと問うことができる、答えが1つの知識。

②思考力・判断力・表現力 概念的知識（構造化された知識）

Whyで問うことができる知識

知識の構造化：事実的知識を比較したり、総合したり、因果関係でつないだりすることで、説明できる知識に。

③学びに向かう力・人間性 価値的・判断的知識（深い学び）

how 自分はどうかと自らに問いかける。自分に問い直し、生き方や考え方に迫る

問い4. 深い学びとは、どのような学びでしょうか？また、深い学びを促す要因は何でしょうか？

- ・子どもの考え方の基本や生きたかに影響を与える、変容を促す学び。
- ・知識だけでは人は変わらない。感動が必要である。
- ・感動と知識（情報）の融合がある学び方。体験の重要性。

(4) 見方・考え方の育成について

見方・考え方とは視点と同じ。教材や社会事象に対する構え・アンテナ

子どもは、白紙の状態では教室にいるのではなく、生活経験を通して、様々な見方・考え方を身につけている。

子どもは既存の見方・考え方を使って、課題を発見する。

子どもは既存の見方・考え方を使って、仮説を立てる

(学習前にできる範囲での知識の構造化を行って)。

学習によって、見方・考え方が洗練化される。(汎用性のある見方・考え方の獲得) →類推・転用

2. 各教科学習とESD

各教科学習を通して、各教科特有の見方・考え方を身につける。

各教科学習を通して、各教科特有の資質・能力を身につける。

教科横断的な学習（総合・生活）を通して、汎用性のある見方・考え方、資質・能力を身につける。

社会を教材化した学習（社会に開かれた教育課程・ESD）を通して、より洗練化され、汎用性のある、見方・考え方、資質・能力の育成を図る。

→ 各教科と同様、ESDの見方・考え方、資質能力を育成する。

3. ESDに関して

(1) ESDで育てたい見方・考え方（ESDの視点）

自然環境・社会環境 (実態概念)	「多様性」	「相互性」	「有限性・循環性」
人・集団の意思や行動 (規範概念)	「公平性」	「連携性」	「責任性」

国立教育政策研究所より改変

多様性：色々ある方がいい

相互性：つながっている、つながりを尊重する

有限性・循環性：有限なものである。それが循環していればいい。

公平性：世代内と世代間の公平を考えていることが重要。

連携性：排他的でなく、異なるもの（異文化を背景とする人々）とも妥協点を見出し、協働する。

責任性：最後までする。リーダーシップを発揮する。協力する。

